様式第3号（第4条関係）

**会議録**

1.附属機関等の会議の名称

　　平成30年度　第2回松川町資料館運営委員会

2.開催日時

　　平成31年3月26日（火）　17時00分から18時15分まで

3.開催場所

　　資料館　視聴覚室

4.出席者氏名

　資料館運営委員

　　松 井 悦 子　坂 本 勇 治　上 松 一 成　清 水 稔 子　亀 山 勝 保　伊 藤 頼 人

竹 村 光 雄　北 原 紀 子

　事務局

　小木曽生涯学習課長　望月係長　松下主事　伊坪主事

5. 協議事項

　　（１）平成30年度事業報告（別紙資料）

6．傍聴人の数

　　なし

7.会議資料の名称

　・平成30年度　第2回松川町資料館運営委員会資料

　・松川町の歴史点描パンフレット

　・ふるさと学習副読本　原稿見本

8．審議の概要

教育長あいさつ（教育長欠席の為、課長あいさつ）

運営委員長あいさつ

平成30年度松川町資料館事業報告について

－事務局より説明－

委員A：建物の修繕について、資料館の耐震については対応する必要があるのか。

委員B：松川町資料館は平成3年に造られたため耐震工事はされているだろう。

委員C：資料の寄贈についてどのように受け入れているか。

事務局：今後無尽蔵に受け入れることは難しいが、現状可能な限り受け入れを行っており、文章を整理するスタッフの予算もある。家の建て替えなどで文書が処分されてしまうケースも多くある。近代の文書や映像も含めて、貴重な資料を受け入れられる態勢を整えていきたい。

委員C：資料館の展示に入れていくことができるのか。

事務局：可能なものから展示に加えていきたい。

委員D：養蚕の器具や農具なども段階的にどのように展示していくか検討する必要があるだろう。

　　　　役場の文書について構図の関係など重要なものも処分されている。しっかり保管するべきだ。

　　　　副読本ついて合併処理浄化槽事業をもう少し詳しく説明できないか

事務局：展示、副読本の件は検討をしていきたい。役場の文書については総務課と連携していく必要がある。

委員E：白隠はなぜ県宝に指定されないのか。

事務局：県に情報をあげて確認したい。

委員E：松尾隆康さんの展覧会は36名だったのか

事務局：人を呼ぶには難しい時期で昨年より見学者は減少した。

委員B：収蔵された文書の電子化についてどのように考えているか。

事務局：重要なものをピックアップして今後予算をつけていきたい。目録はほぼできたので整理して公開していきたい。現在、役場で保管されている文書とどのようにリンクさせて整理していくかも考えなければならない。

委員B：電子データ化は資料を守っていくために大切であるためしっかり検討していってほしい。

事務局：役場総務課と話し合い、検討していきたい。

委員D：文書は100年、200年でだめになってしまう。予算付けして残す方法を考えていかかなくてはならない。